

記念物
【天然記念物】

アカヒゲ

Erithecus komadori

指定年月日／1970（昭和 45）年 1 月 23 日
所在地／地域を定めず指定



撮影：砂川栄喜

たウスアカヒゲは、近年では観察記録がなく、2012（平成 24）年の『日本産鳥類目録改訂第 7 版』では、“絶滅”と記載されており、一早い再発見・観察が待たれる。なお、冬季には越冬のため飛来するナミアカヒゲを、石垣島でも観察することが出来る。

アカヒゲは、長崎県の男女群島から八重山諸島まで広い範囲に分布していて、地域によって雄の紋様にそれぞれ少しずつ違いがある。男女群島、トカラ列島、種子島、屋久島、奄美諸島に生息するものをナミアカヒゲ、沖縄本島のをホントウアカヒゲ、石垣島、西表島、与那国島にいるものをウスアカヒゲと区別している。スズメ位の大きさで、背面は鮮やかな橙赤色の羽根をまとい、白い腹部に胸部は黒のきらびやかな姿をしている。柔らかく震えるような美しい鳴き声から、「森の歌姫」とも形容される。

しかし、石垣島などで観察されてい

記念物
【天然記念物】

オカヤドカリ

Coenobita cavipes

指定年月日／1970（昭和 45）年 11 月 12 日
所在地／地域を定めず指定



餌の残りや熟して落ちたアダンの実などに群がる。石垣方言では小さなオカヤドカリを「アーマンツァー」といい、殻から抜き出して釣りの餌などにも使っていた。

石垣島内にはオカヤドカリ、ナキオカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリ、オオナキオカヤドカリ、コムラサキオカヤドカリ、サキシマオカヤドカリの 6 種類が生息しており、全てが天然記念物に指定されている。

オカヤドカリはマングローブ林やアダンの木陰、海岸林に多く生息するが、まれに陸地の奥深い場所で見かけることもある。脱皮を繰り返しながら成長するが、成長に応じて貝殻を取り替える。人が近づくと全身を殻の中に引っ込めて大きなハサミでふたをし、石ころ然として敵の目をあざむく可愛らしい生物である。

本来は夜行性で、日暮れから活動が活発になるが、海岸林の薄暗い場所や潮の引いた海岸の岩場では、昼間活動していることもある。特に雨上がりには、落ち葉の上の小さな水たまりに集まってくる。雑食性で、釣り人たちの